

追 迫

県立中央病院 PFI の行方

県は5月末、民間資金活用による社会資本整備(PFI)手法を導入した県立中央病院(松山市春日町)本館建て替え工事に着手した。2013年6月オープンに向け、整備運営を委託する特別目的会社(SPC)の「愛媛ホスピタルパートナーズ(HPT)」とともに医薬品や診療材料の調達、医療事務や清掃といった個別業務をどう実施するかなど運営面の検討を進めている。総事業費19.12億円とPFI事業では全国屈指の規模だが、他県では病院PFIが行き詰まるケースも出ている。轍(てつ)を踏む恐れはないのか。

従来型の公共施設整備や業務委託は官が仕様を細かく決め、民間に発注する。これに対し、PFIは求める業務内容を示し、最良の提案をした事業者に長期契約で一括発注。官は業務が要求水準を満たしているか監視し、質を保つ仕組み。計画では、新本館(地上12階、地下2階)に救命救急、周産期センターを集約。24診療科、823床とする。診療業務は県が担当が、他の業務は県と包括契約した愛媛HPTが専門企業とともに実施する。直営よりコストが5・7%安く、効率化でサービスマンも向上するといつ触れ込みだ。

鍵 公開情報と経費節減

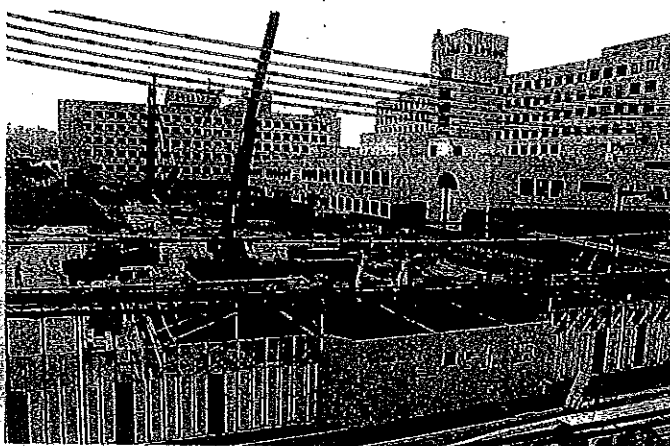
「契約定期的見直しを」

05年2月に開院した高知県・高知市病院企業団立高知医療センターは、全国でいち早くPFIに取り組んだ。施設整備や維持管理、医療関連・一般サービス業務について、SPCと総額21.32億円の30年契約を締結。直営より200億円安くなり、業務の質も向上するはずだった。

しかし、施設整備でコスト削減効果が出た反面、運営では問題が顕著した。医療収益に占める材料費(薬剤費と診療材料費)の割合を23・4%に抑える予定が、05、08年度は平均30%超と大幅超過。診療報酬請求漏れもあった。開院後4年たっても委託業務1349件中、26・5%が要求水準を満たしていなかった。

材料費や経費がかさんで病院が想定以上の赤字に陥っているのに、SPCは業務の達成状況を問わずマネジメント料が保証される契約だったため、毎年黒字。PFIの効果は見られず、直営化で事業転換する見通しを立てたため、開院からわずか4年で契約を解除。4月に直営を再出発した。県公営企業管理局新中央

▼直営に転換
しかし、施設整備でコスト削減効果が出た反面、運営では問題が顕著した。医療収益に占める材料費(薬剤費と診療材料費)の割合を23・4%に抑える予定が、05、08年度は平均30%超と大幅超過。診療報酬請求漏れもあった。開院後4年たっても委託業務1349件中、26・5%が要求水準を満たしていなかった。



PFI手法での新本館建設が始まった県立中央病院
=7月1日、松山市

病院備室にとつても、総額契約による経費固定化は懸念材料。「SPCも経費削減健全経営に努力する仕組みづくりを協議していく」という。

高知ではSPCと2次委託先契約の不透明さも問題に浮いた。巨額の税金を投じたのに情報公開は欠かせない。高知自治体問題研究所の岡田和人研究員(52)は「民間が公共部門に入るなら、情報公開と住民参加という公共の論理を受け入れるべきだ」と指摘。

同室愛媛HPTは「企業秘密を露く、可能な限り透明化する」と約束する。

高知医療センターの堀見忠司院長(64)は、PFIの成否は契約と官民パートナーシップが鍵と分析。最初から先を見通し、完全な契約締結のは無理。定期的に見直し、変化に柔軟対応する仕組みが必要だと言及する。(山本良)

県新中央病院整備室はリスクを想定して責任分担を決めており、SPCと県の二重チェックで問題は迅速に改善すると説明。後発ゆえ、身の丈に合った枠組みを構築できたとする。施設・医療機器整備費32.1億円、9割を金利の安い起債で調達するなどの工夫も随所に講じた。愛媛HPTの小山繁社長(59)も、PFIに精通する社員や医療事務経験者の存在、現場研修など万全と強調する。

だが、不採算医療や地域で不足する医療を担う公立病院で、PFIに参画した民間事業者の利益を確保しつつ、経費を削減し、サービス向上や地域経済への貢献、透明性確保を図るのは容易ではないとみられる。SPCという従来ない組織を紹介することで、機動的な業務運営が阻害される恐れもある。想定通りの事業効果もたらされるのか、PFIの行方を注視する必要がある。(山本良)

▼官民の協力

高知医療センターの堀見忠司院長(64)は、PFIの成否は契約と官民パートナーシップが鍵と分析。最初から先を見通し、完全な契約締結のは無理。定期的に見直し、変化に柔軟対応する仕組みが必要だと言及する。(山本良)

えひめニュースウェーブ Ehime News Wave